

至仏山 マナーマップ

公益財団法人尾瀬保護財団

尾瀬ヶ原と至仏山

至仏山の自然



尾瀬ヶ原の西側に位置する至仏山（標高2,228m）は、主に蛇紋岩といわれる岩石でできています。至仏山の蛇紋岩は、約2億5100万年前頃に地下深くで形成され、その後、約1億年前頃に地殻変動によって隆起し山体が形成されました。

蛇紋岩は鉄とマグネシウムを主成分とする岩石で、溶け出した高濃度のマグネシウムイオンが、植物の根の水分吸収を妨げるため、植物が生育しにくく、蛇紋岩の特性に適応したホソバヒナウスユキソウなどの蛇紋岩変形植物や、オゼソウに代表される北方系植物の生き残りである蛇紋岩残存種などの特殊で貴重な植物が生育しています。

至仏山は、美しい花や眺望に魅せられ、毎年多くの登山者が訪れます。登山道沿いでは、長年の利用の影響などにより、登山道周辺の植生が荒廃し、泥炭や土壌が流失し、裸地化がすすんでいます。



登山道の幅が明確になっていなかった頃（昭和58年）



東面登山道の荒廃箇所（植生回復作業地）

この深刻な状況を受けて、尾瀬保護財団では、行政、地元関係者などで構成される「至仏山保全対策会議」を設置し、科学的な調査や利用実態の把握などを行いながら、至仏山を保全するための様々な対策を行っています。

貴重な至仏山の自然環境を次の世代に引き継ぐためには、至仏山を訪れる全ての登山者が、設けられたルールやマナーを遵守することが大切です。ご理解とご協力をお願いします。



至仏山から望む尾瀬ヶ原

至仏山の保全対策は、平成19年に策定された「至仏山保全基本計画」に基づいて、関係者で組織された「至仏山保全対策会議」を中心に実施しています。

登山道のあり方を科学的に検討するための環境調査や、東面登山道のより専用化に代表される利用のルール作りなど、全国の国立公園の中でも先進的な取り組みを行っています。

～至仏山保全対策の実施体制～

至仏山保全基本計画

尾瀬保護財団

学識経験者

行政

ガイド

日本自然保護協会

至仏山保全対策会議

東京電力HD(株)

東京パワーテクノロジー(株)

山小屋組合

片品村遭難対策救助隊

地元関係者

公益財団法人尾瀬保護財団

TEL.027-220-4431 FAX.027-220-4421
〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1
URL:https://www.oze-fnd.or.jp/



至仏山保全対策カレンダー

※11月上旬以降、至仏山登山道に通じる道路は冬季閉鎖されます。

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

残雪期

登山道閉鎖期間

グリーンシーズン期間

GW（ゴールデンウィーク）前後の対策【4月下旬道路開通日～5月6日】

植生保護や安全の観点により、立入禁止区域等を設定し、山スキーヤーなどにチラシを配布するなど啓発活動を行っています。



立入禁止区域を明確にする誘導ポール設置の様子



立入禁止区域等を記載したパンフレットを配布し啓発活動を行う

登山道閉鎖【5月7日～6月30日】

芽吹き始めた高山植物を守るために、登山道を閉鎖しています。雪の状況に応じて、閉鎖期間が変更になる場合があります。

①東面登山道のより専用化

②携帯トイレの推奨

トイレ施設は、登山口以外にはないことから、携帯トイレの携行を推奨しています。

③植生回復作業

長年の利用の影響などにより荒廃した東面登山道で、植生回復作業を実施しています。



高山での植生回復作業は困難で、試行錯誤をしながらの作業が続く

グリーンシーズンの対策【7月1日～11月上旬道路閉鎖日】

④登山道の付け替えの検討

登山ルートの付け替えの必要性が指摘されている下記3区間（4ルート）において「尾瀬国立公園 至仏山登山道迂回案の妥当性検討報告書」に記載された内容の具体的な検討を進めています。

1. 至仏山東面道上部 2-1. 小至仏山南面・流紋岩斜面
- 2-2. 小至仏山南面・三角ベンチー帯
3. オヤマ沢田代



検討メンバーによる現地見の様子

⑤登山道の維持管理

登山道補修、立入防止柵の設置・撤去、清掃活動



ボランティアと行う立入防止柵設置作業の様子



傷んだ登山道の補修の様子